

I 「わくワークらいふシステム」について

1 「わくワークらいふシステム」とは

本校の児童生徒が高等部卒業後、
自分らしく継続的に働いたり、
自分らしく生活したり、自分らしく生きることができるように
「一人一人の実態に応じた進路指導」を行うシステムのことです。

本校の全ての児童生徒が卒業後に
「わくわくする**仕事**」「わくわくする**生活**」につながるように支援していく計画です。

わくワークらいふ



2 なぜ、今、「わくワークらいふシステム」なの？

近年の生徒や保護者の現状・ニーズ

- ・進路選択に迷うケース
- ・卒業後しばらくして離職したり、施設に通いにくくなるケース
- ・実習で初めて課題に気づいた
- ・生活スキルの獲得の重要性に、高等部になって気づいた
- ・もっと進路の情報をほしい・先生と相談したい

企業や福祉事業所の現状・ニーズ

- ・企業は、早期に実習をしていい生徒を採用したい
- ・福祉事業所は、保護者や生徒本人と早期につながりたい
- ・入所施設は、多くの施設で満床状態
- ・生活介護の事業所が少ない

学校の現状

- ・実習や見学などの少なさ
- ・職場や福祉事業所とのミスマッチが見られる
- ・進路情報の提供や相談の機会の少なさ など



- ・生徒や保護者のニーズ、時代の流れに応じた進路指導の必要性
- ・学校全体でキャリア教育に取り組む必要性

だから「わくワークらいふシステム」を学校全体で
実施するんだね！



3 赤穂特別支援学校 「わくワークらいふシステム」の流れ



共通 <毎年4月>進路希望調査・参観日に実施する懇談会 <随時実施>個別の進路相談会
 <毎年5月>学級担任による家庭訪問
 ・施設見学会を複数回実施 ・各学期の懇談週間で進路相談を実施
 ・地域の関係機関との連携 ・教職員への進路指導研修会の実施 等

小学部入学

基本的な生活習慣（食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱など）を身につける

<2月頃> 中学部体験入学（6年生）



中学部入学

作業学習などの体験学習を通じて働く意欲を育む

中学部チャレンジ・ディズ
 職場・施設見学や校内実習を通して、就労や生活の課題を確認します。

<随時> 他校への進学をめざす場合 教育相談
 <11~12月頃> 高等部体験入学（3年生）
 <2月> 高等部入学選考検査



高等部入学

**より多くの仲間と共に学ぶ中で、主体的な進路決定を図る
 ~ 卒業後や、5年後、10年後を見据えた豊かな生活に向けて ~**

1年生

< 職場・施設見学 >

卒業生が働いている職場や生活している施設を見学します。

< 校内実習 >

卒業後の職業生活や働くということについて、実習を通して考える契機とします。

トライ実習（希望者）

チャレンジ実習（就職を目指す希望者対象）

2年生

< 職場・施設体験実習 >

1学期と2学期に、施設や職場で体験実習に取り組み、適性や課題を確認します。

< 在校生職能評価 >

希望者はリハビリテーションセンターにて2年次には基礎的な課題、新3年次には職種別課題に取り組み、3泊4日で評価を受けます。

< 就労継続支援B型事業所利用に係るアセスメント >

卒業後の進路として就労継続支援B型事業所を利用する場合、アセスメントを受ける必要があります。

< 技能検定 >

生徒が身に付けた就労に関する力を公的に証明する、認定資格です。高等部の希望者は以下の3部門を受検できます。

- ・喫茶サービス
- ・ビルクリーニング
- ・物流・品出し

3年生

公共職業安定所（ハローワーク）との相談会…企業就労に向け居住地の公共職業安定所と相談します。

福祉課との相談会…福祉就労（就労移行支援事業所・就労継続支援B型事業所等）、生活介護サービス利用について居住地の福祉課と相談します。

<6月頃> 結合実習…相談会話を元に実習を実施し、卒業後の進路先を決定していきます（必要に応じて数回実施）。



卒業

<追指導>卒業した年の7月~8月に進路先を訪問し、卒業生の様子を聞き取り、事業所や福祉関係との連携を図ります。

Ⅱ 進路指導部の基本方針

進路指導のテーマ：「自分らしく働く。自分らしく生活する。自分らしく生きる。」

進路を考えるということは、今後の自分の生き方を選択することになります。

生徒のみなさん一人一人には、「自分らしく生きる」という大きな目標があります。進路選択・進路決定にあたっては、他人に左右されることなく、自分自身にあった進路先を見つけることが大切です。卒業後の進路のミスマッチを減らし、自分らしく継続的に働いたり、自分らしく生活したりすることができるように、「一人一人の実態に応じた進路指導」を行っていきたいと考えています。卒業後だけでなく、5年後、10年後の児童生徒の姿を想像しながら、どのようなチカラを身に付けていけばいいのかを保護者と共に考え、支援していきます。

1 重点目標

- ・小学部・中学部・高等部の連携を図りながら、12年間を見据えたキャリア教育を推進する。
※ キャリア教育全体計画、キャリア発達段階表に基づく組織的・継続性のある指導の充実
- ・児童生徒のニーズや発達段階、障害実態を踏まえ、自立と社会参加を目指した進路指導を行う。
- ・地域資源を活用した体験的な活動を取り入れ、現場での学びを推進するとともに、地域とのつながりを深め共生社会の実現を意識した学校・家庭・地域の日常的な連携を目指す。

2 指導方針

（１）全体的・基本的方針

- ア 進路指導の意義や重要性を、全職員が認識し、組織的・継続的な進路指導体制づくりを進めます。
- イ 障害の程度や特性に応じた進路指導を早期から計画的に進めます。
- ウ 児童生徒の進路に応じた適切な教育課程の編成を進め、作業能力・就労意欲や安全意識を養います。
- エ 的確な情報を提供し、保護者への啓発を深めます。

（２）個別的・具体的方針

- ア 保護者及び関係機関との連携を深め、施設や職場の見学及び職場実習・施設実習等を実施します。
- イ 児童生徒の能力や適性に応じた適切な進路指導を行います。
- ウ 情報収集に努め、その活用を図ります。
- エ 職場や施設等に定着するための追跡指導を計画的に行います。

3 学部・学年の具体的な目標

働く生活（就労の形も様々になってきています）とは？

～卒業後の生活を具体的にイメージしてみましょう～

小学部の目標

- (1) 基本的生活習慣の確立を図る。
- (2) 将来の社会自立に向けて、意欲的な生活態度や生活スキルを身につける。

生活スキルやルール・マナーはどのくらい身についていますか

例えば 食事、歯磨き、手洗い、トイレ、衣服の脱着、身だしなみ、あいさつ など



何か一つのことに打ち込めることはありますか

体力、気力も充実してくる時期です。もう青年期の入口です。いつまでも、子ども扱いしていませんか。

地域活動など新たな社会とのつながりを見つけていきましょう。

中学部の目標

- (1) 基礎的な知識、体力、コミュニケーション能力を高める。
- (2) 係活動を通して、自分の役割に責任をもって果たす態度を養う。
- (3) 作業学習、校内実習を通して、働くための基本的な知識・技能・態度・ルール・社会の仕組み等を学ぶ。



高等部の目標

『仲間と共に 心豊かな青年の力を育む』

- 1年生： 社会生活能力を高める。
進路への関心や自覚を高める。
- 2年生： 社会生活能力や適性を高める。
いろいろな体験を通して、進路をより具体化させる。
- 3年生： 進路決定し、その実現を図る。
卒業後の生活に、よりよく適応できる諸能力を高める。

